



陽気は幸せの種

図書出版 養徳社
〒632-0016
天理市川原城町388
TEL 0743 (62) 4503
FAX 0743 (63) 8077

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No64

2012.7.15

第7号(24年12月号)から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で63年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

今日の問題について

上原義彦(談)

スポーツ・音楽・宗教

おちばに大きな美しい電気温泉がほしい、心の埃を払って、その上ゆつたりと風呂に入ったら、どれほど清々するだろう!……という声を、よく聞きますね。同感です。宗教文化都市としてのおちばに、それはあつて然るべき施設の一つでしょう。しかし私は、それと同時に、総合グラウンドと野外音楽堂とがほしいのです。



宗教とスポーツ
宗教と音楽
決して、赤の他人の

関係ではないのです。その結びつきに関する私の説を、聞いてもらいましょう。スポーツの味は、その勝負を超えて、互いに、こゝろゆくまで力を出し合つて楽しむところにあるのでしょうか。その精根をつくしてのぶつかりが、勝負となつてあらわれるので、これは信仰生活と一つの境地だと思われまます。信仰に燃えて、つくしきり、はこびきり、もたれきる、そこには私というものが全く消えていまずね。その捨身と神様とのぶつかり合いが、おたすけとなつて現れてくるので、この気持は、非常に近いでしょう。お説教で「べし」の枠をつくることも結構ですけれども、むしろ神にふれる素地は、このような健全な環境に育てられてゆくように思えますね。

もちろん、スポーツは礼拝ではないですよ。ただ、その中にこもる人の気持が、神に通じてゆく生地になるんですね。音楽についても、同じように私は考えています。私の三男がその音楽家の末席にありますが、彼の生活をじつと見ていますと、その透きと

おった気持に打たれることがあります。そして非常に敏感なのです。それは神経が細いというわけではなくて、真理に対しての感覚が鋭いのです。

外を歩いていて、琴や三味線の音色を聞きますとね、「あゝあの音はちがつている……」と云うんです。彼は琴や三味線を知りやしません。それでも、本物とにせ物とに対する感じ取り方が、敏感なんです。私はいつも思うのですよ、信仰というものは、神に対して敏感であることです。神様の思召はどこにあるか?これを如何に鋭く感覚するか、ということが、信仰の生命でしょう。

いつか、文楽の大隈太夫に聞いた話ですが、「壺坂靈験記」をけいこ中です。この壺坂の観音さまへ……というところが、なかなか師匠のように出来ない、一応やれても、師匠のように敬虔さが出て来ない——その時に、つくづく信仰がたりないと思つたというんです。観音さまへの信仰をいうのではありません。芸道に信仰がないという気持なんです。こういう訳で、私は、スポーツにも音楽にも、宗教人として打ちこんでいきたいのです。仮に音楽堂が出来たとしますと、夕勤めの帰りに、また朝勤めの帰りに、音楽をたのしむひとときの清冽な刺戟が、どれほど、お互いの信仰を養ってくれるか知れないと思うのですよ。(後略)
○上原義彦・うえはらよしひこ○
(一八八九—一九七九) 本部長、東大教会二代会長

日々の小さい心遣い

蒔いた種

明治十五年、梅谷おたねさんが安産の御礼やら、生れ子の頭一面に出来たくさが痛がるので、そのお助けのお願いやらで、その子供を連れて初めてお地場に帰った時、教祖様は、

「お可哀いように、こちらへおかし」と仰せられて、子供を抱きとられ、「くさ」というものはなあ、汚いものやで。親の汚い心を知らして下さるのやで。ほんになあと思えば、きつと助けて下さる。汚いと言ってもなあ、日々の小さい心やで。人に物やっても、やり過ぎやなかつたかと、御礼を受けるような心やつたらいかんで」

と仰せられて、坐っておいでになる座布団の下から、皺を延ばすために敷いて居られた紙を出して、御自分の唾をつけて子供の頭に貼っておやりになった。翌日になって、仰せ通りにおたねさんが、その紙を剥がすと、くさはすつきりなおっていた。

今から四十年前頃のこと。

徳島市を去る西方六里の田舎から或る日、名東にある教会へ六十を越したと思われる老夫婦が顔色を蒼くしてやって来た。用件というのは、先日、自宅にて老夫婦とその長男とが口論をし、そのあけく、長男は家出して大阪へ出奔してしまつた。教会で、その家出息子の足止めの願を神様にしてくれと言うのである。会長はその話が終つてから、次のようにさとした。

「今日、このように息子さんが家出するの、決して偶然ではない。必ず種子が蒔かれてある。あなたがたは若い頃、親子口論して家出したことはないか」はなしをきき終わつた時、老夫婦が愕然と顔色をなくして、

「私は若い時に親子口論して讃岐の高松まで家出したことがあります」と述べた。そこで会長は、そのさんげを神前にて行い、老夫婦、教会の人々揃つてお願いをしたのである。

その夜、老夫婦は教会で一泊した。翌

朝六時頃教会の石門を開けて見ると、意外、そこには息子がしょんぼりと立っていた。早速教会に入れてどこから、どうして帰つて来たのかというく尋ねた。

——家出してから大阪へ行った。そこで何の当もなく四、五日うろついていたが、昨日夕刻六時頃より急に家に帰つた



涼しげに揺れる旗の誘惑

くてたまらないようになった。そして昨夜乗船して今朝上陸した。しかし、家出者であるため、家へも帰られず、教会の門も叩かれず、寒空に一時間余りも門外に立つて居た——。こう息子は答えるのであった。

養徳社 よもやま話

今年の節電対策にとりいれたのは、エココプター！ エアコンの風を拡散させ、室内の温度差を下げる効果があるようだ。商品名から、どうしてもドラえもんが頭に浮かぶ。

『わーん、ドラえもん』どうしたのび太君『ジャイアンとスネ夫が節電できない僕は非国民だつて言うんだ』なに！ そんな時は……！

なーんて、幼稚に想像する。アニメのオチは道具を使つても結局、うまくいかないのだが、小さなエココプター4機では、広く感じる部屋の隅々まで気流が届くのか、宣伝のように室内環境はよくなるのだろうか……。効果を期待したいがエアコンの匂いや埃が社屋全体に拡散されなければよいが……。つて、それは道具以前の問題やがな！

数年前に導入した新型ブラインド。業務用の品で、最も壊れにくいタイプだと、業者さんに聞いていたが壊れてしまった。切れた紐を調べると、上げ下げするための紐に羽があたり、動かす度に摩擦を起こしていた。早速、業者さんに修理を依頼したが届いた見積り金額を見てビックリ！ 紐を交換するだけと高を括っていた。たすけて、ドラえもん。

早くも重版！

人間がたすかる原理

——「天の理」を解きほぐす——

中臺 勘治 著
(報徳分教会長)

四六判並製 304 頁
定価=1,365 円 (税込)

養徳社
出版
天理市川原城町 388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/

昨夜午後六時頃と言え、まさに神前にてお願いをかけていた時間であった。老夫婦は喜びにみちて息子を連れ帰つたのである。 布教戦線記 (『真実の道』道友社刊より)